

東海メディカル比に工場

心臓用カテーテルを生産

医療機器メーカー、東海メディカルプロダクツ(愛知県春日井市)が海外で初めてとなる工場写真、同社提供。フィリピンに建設し、一月末から生産を始めた。心筋梗塞などの緊急補助に使う「バルーンカテーテル」を海外へ輸出する拠点にしたい考えだ。

バルーンカテーテルは海外からの引き合いが増えており、現在四十カ国に輸出しているが、アジア向けを中心に製造コストの引き下げが課題になっていた。フィリピンは若い労働力が豊

富で、人件費が日本の十分の一に抑えられるという。マニラ近郊バタンガス州の工業団地に六千平方メートルの敷地を取得し、工場(延べ床面積九百六十平方メートル)を建設した。投資額は三億円で、従業員は三十人。

心筋梗塞などの患者が使う心臓用のバルーンカテーテルは現在、春日井市と岐阜県土岐市の二つの工場であり、このうち七千本を輸出に回している。

これを徐々にフィリピンに移し、初年度は三千本を生産する。その後、工場を拡張し、五年後には三万本まで生産能力を引き上げる。

筒井康弘社長は「将来はフィリピン工場で海外向けの製品をまかなえる体制にしたい。日本の工場は国内向けの製品と生産ラインの改善に特化し、すみ分けを図る」と話している。

(白石真)

